

ニューズレター

第6号

2015年4月1日発行



(公財)日本テニス協会
テニスミュージアム委員会

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館
電話:03-3481-2321



日本選手初の四大大会決勝進出

共同通信社編集委員・論説委員 小沢 剛

全豪での日本男子選手の足跡と将来

1905年に始まった全豪選手権に日本選手が初めて出場したのはアデレードで開かれた32年大会だった。32歳の原田武一と、24歳の佐藤次郎、23歳の布井良助。31年に来日した豪州テニス界幹部が招待した。狙いはデ杯戦への準備。1月初めに欧州から豪州へ渡った佐藤は前哨戦でハリー・ホップマンを破り、豪州紙に「技巧とフットワーク、加えてストロークにスピードがある。佐藤は豪州の危険な敵」と評された。3人はメルボルン、シドニー、パースなどで国際試合を重ねて2月8日からの全豪に臨んだ。

当時の全豪は選手数も少なく、日程は1週間。佐藤はベスト8に進み、準々決勝で16歳の新星、ビビアン・マグラスと対戦した。バックハンドの両手打ちが武器のマグラスに第1セットで3ゲーム先行されたが、力を見極めてそこから逆襲、6-3、6-3、6-2で退けた。準決勝の相手はホップマン。6-0、2-6、3-6から第4セットは0-3。ここから巻き返して6-4でセットオールにこぎ着けたが、最終セットは4-6で屈した。しかし、佐藤は混合ダブルス決勝でクロフォード夫妻ペアにフルセットの接戦を演じた。タイトルには届かなかったが、日本選手初の四大大会決勝進出だった。

布井はシングルス準々決勝で、この大会優勝するジャック・クロフォードに逆転負け。原田はダブルス準決勝で、優勝したクロフォード組に敗れた。ちなみにホップマンはダブルスの名手で、後に豪州をデ杯16度優勝に導く名監督。クロフォードは33年に年間グランドスラム達成まで「あと1セット」と迫った世界的強豪である。

現在と環境が違い、渡航に数週間を要した。だから外国からの参加選手はごく限定され、だからこそ招待だったのだろう。2カ月近い日本選手の「ツアー」は興行的に成功を取めた。佐藤は豪州から渡欧し、この年、ウィンブルドンで初のベスト4。布井も翌年、佐藤と組んでウィンブルドンのダブルス準優勝。世界を回って腕を磨く、の言葉が文字通り生きていた時代である。もっとも、それは

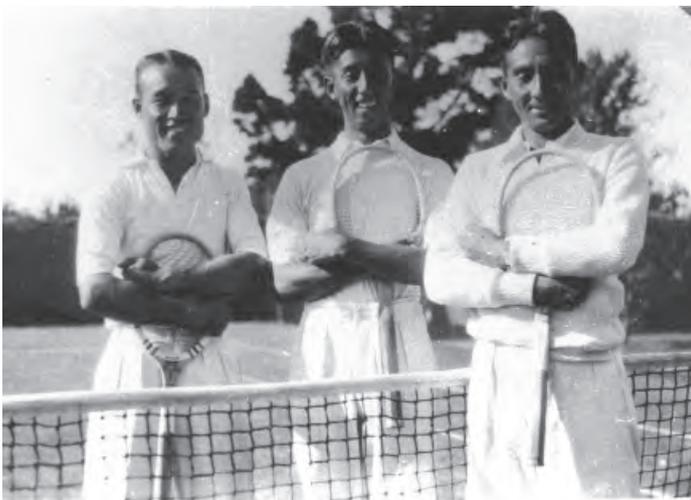


戦後、全豪初参加の石黒修・渡邊康二組の活躍は地元紙に大きく報道された。
The Sun 1965.1.28 新聞提供：渡邊康二氏

相手にも当てはまり、33年のデ杯で日本は豪州に2-3で敗れたが、佐藤が若いマグラスに喫した黒星が大きかった。日本を招待した豪州の狙いは結果的に当たったことになる。

日本選手の全豪での活躍は、戦後に移る。69年にオープン化する4年前、男子ダブルスで石黒修・渡邊康二組が第8のシードを守って8強入り。準々決勝でこの大会準優勝するロイ・エマーソン、フレッド・ストール組(豪州)に屈した。地元紙によれば、日本ペアは芝コートで初のダブルスだったそうだが、この年の全仏を制する豪州ペアに5-7、10-12、3-6と善戦。前年のウィンブルドン・ダブルス優勝のストールは「サーブが素晴らしく、稲妻のようにすばやく動き、決して挑戦をやめなかった」とたたえた。

この後、男子の活躍は錦織圭の出現まで待つことになる。2012、15年にベスト8。素早いコートカバーと展開力の早さ、ネットも進歩し、意表を突くドロップショットも巧み。精神的にも体力面もタフ。恐らくグランドスラム大会でもかなりの確率でベスト8以上をキープするだろう。足りなかった第2週の経験を積み重ねれば、間違いなく最後の日曜日(決勝)に笑える日が来るはずだ。



左から、全豪初参加の佐藤次郎、布井良助、原田武一選手
(原田武一氏寄贈アルバムより)

(注) 参考資料：「アメリカン・ローン・テニス」、「豪州でのアジアスポーツ」



中期5カ年計画報告とニューヨークカップ（紐育杯）復元について

テニスミュージアム委員長 小田 晶子

2014年3月末で中期5カ年計画が終了し、総括と第2期5カ年計画につき、武内勝よりご報告させていただきます。延べ1,100余名の方々からお寄せいただいた貴重な浄財のお蔭で数々の事業が行えました事を心より御礼を申し上げます。

又、平成27年度事業として、ニューヨークカップ復元に取り組みさせていただきます。

ニューヨークカップは、「日本テニス界の歴史と伝統の礎」と言える、大変、由緒ある優勝カップです。1921年のデ杯初参加でチャレンジラウンドに進出した事を記念して、ニューヨーク日本倶楽部から寄贈されましたが、当時の在留邦人の方々のご厚意と、日本庭球協会設立の原点となったデ杯戦での輝かしい活躍を後世に伝える目的で復元を計画しました。

今年は戦災でカップ焼失から70年、全日本テニス選手権大会が第90回大会を迎えるのを機に復元し、運用については、ご寄贈いただいたニューヨーク日本倶楽部様のご厚意に背かない様、真の日本チャンピオン（男女、車いすテニスを含む）に授与できる様、JTA全体で検討して行く所存です。

カップ復元には約350万円、全日本選手権大会記録DVD作成、山積する史資料のデータ化処理と公開、webテニスミュージアムの更なる充実、等々、引き続き、「終わらなきプロジェクト」に取り組んで参ります。これらの活動を進めるに当たり、第2期5カ年計画の募金目標額2,000万円を新たに設定いたしました。今後とも皆様方の温かいご支援を切にお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。



テニスミュージアム 5カ年計画書

テニスミュージアム委員 武内 勝

第1期5カ年計画の総括

テニス史資料の状況調査を主に進められてきたテニスミュージアム設立の準備は、平成21年度に創設された「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」をもって具体化段階に進みました。

[基金] 目標額 2000万円

延べ1100人以上の多くの方々からご支援を頂き、お蔭様で目標額を大きく上回り、寄附金累計額は28,699,920円となりました。

[計画進捗状況]

第1期5カ年計画の骨子と進捗状況は以下の通りです。

1. 資料保管・閲覧室の設置

保管場所はJTA事務所内書棚、岸記念体育会館の地下倉庫、有明コロシアムの倉庫などに分散していました。ミュージアム活動の拡大に伴い更なるスペースが必要となり、中目黒にレンタルトランクルームを賃借したことと有明テニスの森公園管理事務所内に陳列ケース4台と書棚を購入するなど保管場所を拡充しました。これらの備品代に23万円を基金から支出しました。

閲覧室は未だ設置できていません。

2. 史資料の収集と整備

(1) ジャパンオープン期間中の展示に合わせた史資料の収集と整備

[佐藤次郎生誕100年]、[日本テニスはじめて物語-IとII]、[テニスファッション物語]、[高校テニス100年の歩み]、[世界の潮流・来日選手たちに学んだ近代日本テニス]、[いま甦るニューヨークカップの記憶]

(2) 古いフィルムの修復・編集とDVD化

地下倉庫に埋もれていたフィルムを発掘し、カビや傷などで劣化した映像を専門業者に依頼して修復、インタビューやナレーションを入れて編集を施してDVD化するなど資料の整備を実施した。またNHKやWOWOWに新発見映像を元に企画書を作成し、番組を作成・放映されるなどの活用を図りました。

[甦る田園コロシアムの熱戦]、[日本女子テニス・栄光への道のり]

これらに443万円を基金から支出しました。

(3) 銀メダルレプリカ作成

秩父宮記念スポーツ博物館が所蔵している熊谷・柏尾選手1920年アントワープオリンピック銀メダルをやはりテニス協会としても所蔵し、機会あるごとにこの偉業を伝えていきたいとの思いからレプリカを作製しました。これに43万円を基金から支出しました。



これらの研究（史資料の収集と分析など）から、日本のテニスの過去の栄光や名プレーヤーに光を当てることができただけでなく、テニス協会発足の際の逸話を発掘したなど貴重な成果を上げることができました。

3. 史資料の電子化とデータベース化

資料を整理、保存、共有するためには、具体的な作業とし「デジタル化」「データベース化」の2つの基礎作業があり、その取り組み

を開始しました。

(1) デジタル化

歴史的価値の高いテニス雑誌、ご遺族が保管していたアルバム、貴重なウッドラケットなど消失や劣化が免れないものを永久保存に耐えるよう順次デジタル化しています。

これらに167万円を基金から支出しました。

(2) データベース化

デジタル化したものを整理し、必要な時に閲覧できるような仕組みとして、データベース化に取り組んでいます。2014年度末時点ではこのシステムを業者に依頼し構築中であり、このシステムにデジタル化した資料を一部入力し始めました。これらに450万円を支出しました。

4. 学芸員の確保 未達成

最大の課題がこの学芸員の確保です。テニスの歴史に興味があり、学芸員としての資質を持つ若手の育成が不可欠です。

第2期5カ年計画の骨子

[基金] 目標額 2000万円

テニスミュージアム設立時の内装や備品に主に活用するため、基金として積立てます。

[第2期5カ年計画骨子]

1. 資料保管・閲覧室の設置とその拡充

2. 史資料の収集と整備の拡充

(1) ニューヨークカップの復元

(2) 「全日本選手権大会90周年の足跡」DVD作成

3. 史資料の電子化とデータベース化の拡充

入力作業を委託するなどしてスピードアップし、早期にデータベースの公開を目指します。

4. 有明テニスの森公園施設利用とミュージアム設立計画の立案

2020年東京オリンピック・パラリンピック後の施設活用として、有明にテニスのメッカに相応しいテニスミュージアム設立計画を立案し、関係団体に働きかけてより具体化を目指します。

5. 専門委員の確保

学芸員やミュージアム企画員、入力作業員などの専門委員の確保・育成を目指します。テニスが好きでミュージアムに興味がある学芸員の方が居られましたら、是非、ご紹介下さい。

「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」 平成21年度～平成25年度経費累計		
(単位：円)		
費目	支出項目	支出金額
事業費	ニューズレター趣意書	944,222
	史資料データ化	6,100,762
	史資料修復費	12,127
	システム化	4,500,000
	銀メダルレプリカ 備品	428,000 225,120
	小計	12,210,231
事務費	募金案内封入作業費	39,900
	送料通信費	167,590
	振替口座徴収料	104,880
	振込手数料	18,825
	免税領収書発行料（体協）	208,826
	事務用品他	8,230
小計	548,251	
支出累計		12,758,482

いま甦るニューヨークカップの記憶

「ニューヨークカップ(紐育杯)」とは、1922(大正11)年に開催された初めての全日本庭球選手権大会から、1942(昭和17)年第20回大会までの男子シングルス優勝者に授与された優勝カップの名前です。しかし、なぜニューヨークカップと呼ばれていたのでしょうか。その名前の由来については、1920年にまで遡って説明しなければなりません。

■1920年代のニューヨーク

第一次世界大戦が終わって間もないニューヨークは活気に満ちていました。イギリス、アメリカ、フランス、イタリアに並んで五大国の一員となった日本の企業も、世界経済活動の中心となっていたニューヨークの拠点を強化するようになります。

日本のテニス界も国際化を急いでいました。テニスは、国際交流を橋渡しする手段でもあったのです。海外経験のある経済人たちは、慶應義塾大学庭球部で実力を発揮しはじめていた熊谷一彌を、米国テニス行脚に送り出しています。卒業後も三菱合資会社銀行部に入社し、1918(大正7)年からニューヨーク勤務となった熊谷は、全米ランキング・ベストテンの常連になります。1919年には3位となりました。

翌年の第7回オリンピック・アントワープ大会に派遣された熊谷はシングルス、そして柏尾誠一郎(三井物産ニューヨーク勤務)と組んだダブルスでも準優勝して、日本初のオリンピック・メダルを獲得しています。



アントワープ大会で入場する日本選手団
(後方の左から熊谷・柏尾)

日本人初のメダリストとなった熊谷、柏尾。アントワープ大会で獲得した銀メダルはレブリカが作成されている



同じく1920(大正9)年、インドで活躍していた清水善造(三井物産カルカッタ勤務)もヨーロッパに遠征し、ウィンブルドン大会ではチャレンジラウンド決勝に進出してテニス界の注目を集めていました。国際テニス界での日本選手活躍は日本にも伝わり、従来一般的だった軟球使用から、国際ルールによる硬球使用のテニスに転換する大学が増えます。

■日本庭球協会の設立とデ杯初参加

内外人が集う東京ローンテニス倶楽部の名譽書記であり、三井系の実業家でもあった朝吹常吉が、磯子夫人とともに欧米回遊の旅に出たのも1920年でした。そして11月、ニューヨークに戻った朝吹は、熊谷らと相談し、米国ローンテニス協会のJ. S. マイリック会長ら主立った人々をホテルに招いて会食することにします。機は熟していました。日本を代表する協会を設立すれば1921年のデビスカップ争奪戦(世界の国地域別対抗戦)から参加できるという話しになり、実務的な準備も進みます。



米国協会関係者とデ杯参加の打ち合わせをする朝吹常吉(右側)

帰国後の朝吹は関東、関西の関係者に働きかけ、翌年3月には日本庭球協会を仮発足させてデ杯参加の申し込みをしました。推されて、初代会長も引き受けています。

1921(大正10)年、熊谷、清水、柏尾の初参加デ杯日本チームは1、2回戦不戦勝のあと、3回戦でインド、4回戦でオーストラリア(ニュージーランドとの連合)を破り、前年度の覇者米国に挑戦するチャレンジラウンドに進出します。

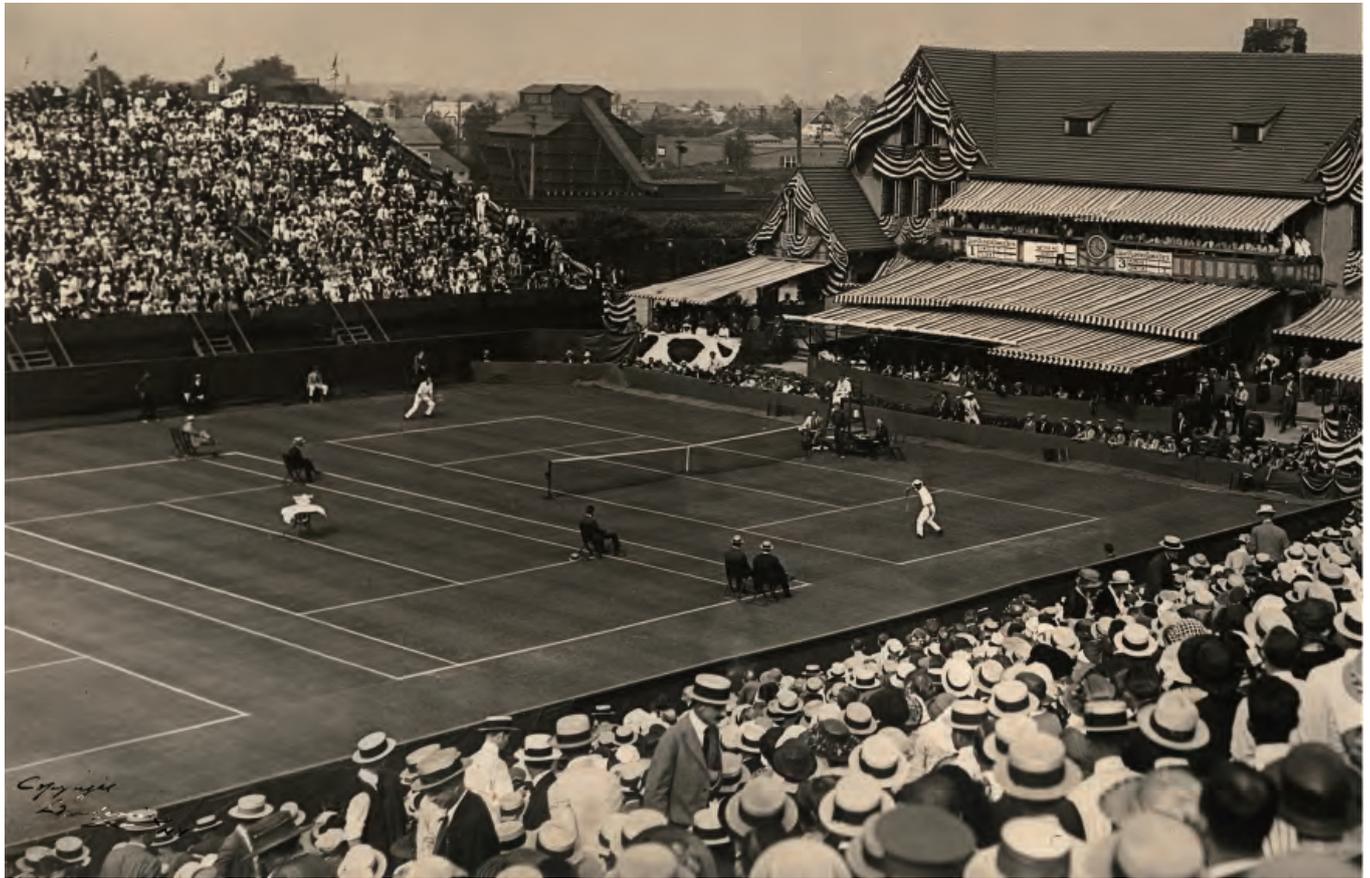
■フォレストヒルズの晴れ舞台

ビル・チルデン、ビル・ジョンストンを擁する米国チームは、前年度にオーストラリアよりデビスカップを奪還したばかりでした。9月2日、試合会場となったニューヨークの名門ウエストサイドテニス倶楽部スタジアム(通称、フォレストヒルズ)には、争奪戦の発起人でもありカップの寄贈者でもあるD. F. デビス氏も姿を見せ、6年振りに米国チームが持ち帰ったカップと、さらに追加して歴代チャレンジラウンドの記録を刻むために新しく製作された銀の受け皿が披露されました。スタンドを埋めた12,000以上の観客の中には各国デ杯チームや、渡米中だったスザンヌ・ランランなど女流有名選手たちの姿も見られました。

ニューヨーク在留日本人たちにとっても、久しぶりの晴れがましい舞台でした。スタンドの上には、日米の国旗が勇ましくひるがえっています。米国西海岸での日本人移民問題や東アジアでの領土問題など日本への批判も、この日ばかりは関係ありません。ニューヨーク日本倶楽部の会員たちも応援にかけつけていました。倶楽部は、日米交流と在ニューヨーク日本企業人の親睦を目的とし、1905(明治38)年に創設された社交クラブです。

New York Times紙(1921年9月3日付)に掲載された主な観戦者名のなかには「A. Takahashi, M. Miho, B. Mitsui, Mr. and Mrs. Tajima, Mr. and Mrs. Minagawa, Mr. and Mrs. Naganuma, and Messrs. Kashiwagi, Nagaike, Onishi, and Konazaki」(明かな誤記を訂正して引用)ら日本人の名前が見られます。

3日間にわたる対戦は、第1日第2試合で清水がチルデンをあと2ポイントの瀬戸際まで追い詰め、第2日のダブルスも接戦となって観客を沸かせました。結果としては0-5で米国チームがカップを保



フォレストヒルズで当時世界最強と言われたビル・チルデン選手と対戦した清水善造選手

持することとなりましたが、初陣日本チームの実力を世界に示すことができましたのです。

■ニューヨーク日本倶楽部から贈られた「The NEW YORK CUP」

しかし、日本国内でのテニス環境はまだ一步を踏み出したばかりでした。チャレンジラウンドの興奮さめやらぬ10月、ニューヨークの日本倶楽部有志は日本のチャレンジラウンド進出を記念したカップを製造し、翌年に正式発足する日本庭球協会に贈ることとします。

デビスカップの受け皿と同じ「Black, Starr & Frost」社が製造した銀杯は約1,000ドル（単純計算で現在の約340万円）で、高さ16インチ（約40cm）、口径8インチ（約20cm）、重さ165オンス（約4.6kg）です。「The NEW YORK CUP」と名付けられ、「日本のデ杯参加とチャレンジラウンドでの栄えある健闘を記念して、日本倶楽部から日本庭球協会へ贈る」という意味の英文が刻まれていました。

翌年4月、三井物産の三保幹太郎が持ち帰ったカップは、9月に開催されることとなった全日本庭球選手権大会（以下、全日本）男子シングルス優勝杯として使われることになりました。



1922年4月、ニューヨークカップ到着を記念して。左から、熊谷一彌、渡辺恒次郎（三井物産、台覧試合で審判）、山崎健之丞（東京ローンテニス倶楽部会員）、鎌田芳雄（三井物産、協会理事）、朝吹常吉



1922年から1942年までの全日本庭球選手権大会男子シングルス優勝杯。ニューヨークカップと呼ばれていた写真：毎日新聞社提供

■台覧試合と攝政宮記念カップ

1921年デ杯初参加の活躍で一躍有名人となった清水善造が一時帰国したのは、11月3日のことでした。東京、大阪で「凱旋」報告した清水は12月17日、宮内省千代田倶楽部のコートで行われる台覧試合に招かれます。前年3月から約6ヵ月間の欧州旅行から帰国後の11月、攝政に就任された東宮（皇太子）はゴルフ、テニス、乗馬などを嗜まれるスポーツマンでした。

翌年4月に帰国した熊谷一彌も5月6日、新宿御苑のコート開きとなる台覧試合に招かれています。

台覧試合は、テニス界全体にとっても名誉なことでした。日本庭球協会は、台覧試合を行った際に清水と熊谷に与えられた御下賜金をもってカップを製造します。「攝政宮殿下台覧庭球…」など記念の文字が刻まれた一対の攝政宮記念カップ（攝政宮杯）は、全日本男子ダブルス優勝杯となりました。

■カップを手にした歴代優勝者たち

1922年9月、第1回の全日本シングルスで優勝した福田雅之助は、朝香宮から拝受したニューヨークカップを所属するポプラ倶楽部で披露したあと、美しい大カップを自宅に持ち帰って母親を驚かせました。

つづく第2回以降は、1923年原田武一、1924-25年俵積雄、1926年太田芳郎、1927年安部民雄、1928年牧野元、1929年原田武一、1930年佐藤次郎、1931年桑原孝夫、1932年布井良助、1933年西村秀雄、1934-36年山岸二郎、1937年Gottfried von Cramm、1938年山岸二郎、1939年Franjo Puncec、1940年小寺治雄と続きます。それぞれの時代に、それぞれの物語がありました。

その間、1934（昭和9）年10月には、ローンテニス社主催による「テニス展覧会」が東京と大阪で開かれています。ローンテニス誌に掲載された記事によれば、会場にはニューヨークカップ、攝政宮杯など数々のカップ類、ラケット、写真、テニス書などが展示され、テニス医学の図解、用品用具・コートに関する研究などの発表、テニス映画の映写もあって、大好評だったとのことでした。

ニューヨークカップを手にする歴代選手たち



上段左から、福田雅之助(第1回1922年※下の円内はダブルス優勝の川妻柳三(左側)安部民雄とともに、原田武一(1923年)、佐藤次郎(1930年)、布井良助(1932年)、山岸二郎(1936年の単複優勝当時。攝政宮杯を手にはしているのはパートナー村上麗藏)

■消えたニューヨークカップ

1940(昭和15)年、欧州大戦のためデ杯が中止されます。アジアでの戦況も厳しくなり、翌年8月に予定されていた全日本など各種大会も開くことができなくなりました。12月には太平洋にも戦線が拡大し、スポーツ団体は整理統合されます。このような情勢下にあった1942(昭和17)年10月、明治神宮国民錬成大会が通算第20回となる全日本を兼ねる形で行われています。

当時、早稲田大学庭球部の主将だった鷺見保は、恵まれた体格と技術を生かし切れていないと評されてはいましたが、全日本では「一回戦の初球から身心こめた一球一打主義で押し通そう」と考えていました。かつて全日本ダブルスでベスト4(1922年)だった父親の豪雄も、毎日の手紙で「責任とか優勝などに絶対気を奪われるな、一ポイント一ポイントを心をこめて打て、身体を大事にしろ、油断するな、最後迄頑張り、家族一同応援してるぞ……」と激励しています。

さらに「先輩、部員一致の伝統の力」に押され、鷺見は優勝しました。神戸の自宅にニューヨークカップを持ち帰った鷺見は、やはりテニス大会でのカップを手を持つ弟の敏郎とともに記念写真を撮り、卒業後はすぐに陸軍に入隊しました。

フィリピンのルソン島で鷺見保が戦死したのは、1945(昭和20)年2月と伝えられています。この頃より神戸市域も空襲を受けるようになり、5月には実家のある御影町(現在の神戸市東灘区御影町)の航空機工場を目標にした精密爆撃が行われました。幸いにして実家にいた父母と3歳の甥は逃げのびることができましたが、惜しくもニューヨークカップが焼失したのはこのときのこととされます。

■発掘されたニューヨークカップの記録

戦災での焼失ばかりでなく、戦時中には金属供出や銀回収運動のため多くの賞杯が失われました。終戦後の1945(昭和20)年11月に日本庭球協会が復興し、翌年10月、田園倶楽部コートで第21回全

日本が開催されましたが、カップが授与された記録は見当たりません。

日本水泳連盟と日本庭球協会に「天皇杯」が下賜されたのは、1947(昭和22)年8月のことでした。10月、甲子園テニス倶楽部コートで行われた第22回全日本からは、男子シングルスに「天皇杯」、男子ダブルスに新しく製造された「摂政宮杯」が授与されています。

一方、失われたニューヨークカップの全貌も甦ります。2014年9月には新資料「Tennis Trophy for Japan」(American Lawn Tennis誌1922年4月15日号に記事と写真掲載)が発掘されて、カップ製造の経緯や刻字までもが確認されました。

Tennis Trophy for Japan

A notable addition to the tennis trophies of the world is the cup which is being presented to the Japanese Tennis Association by the Nippon Club of New York.

The idea of the donors has been to commemorate in substantial form Japan's signal successes in her first entry into international competition for the Davis Cup. The trophy was made by Black, Starr & Frost, and is a massive affair of handsome design, standing sixteen inches high and weighing one hundred sixty-five ounces Troy.

The inscription on it is as follows:

THE NEW YORK CUP

Presented to

THE JAPANESE TENNIS ASSOCIATION

By the

NIPPON CLUB

Of New York, U. S. A.

In commemoration of Japan's first entry in the International Competition for the Davis Cup and in admiration of its team's glorious fight in the Challenge Round at Forest Hills, September, 1921.

Ichiya Kumagae, Captain
Zenzo Shimidzu
Seiichiro Kashio

The Nippon Club is presenting the cup to the Japanese Tennis Association without reservations, but expresses the hope that it will be used as the championship tennis cup of Japan.

It has recently left New York in charge of M. Miho, one of the Japanese tennis enthusiasts, who will make the presentation to the Japanese Association.



The \$1,000 Trophy

カップ寄贈の経緯を伝えるAmerican Lawn Tennis誌(1922年4月15日号) P36記事

この歴史を紐解くにあたり、岡田邦子さん、内藤久也氏(日本クラブ)の協力を得ました。詳細はwebテニスミュージアムをご参照ください。

楽天ジャパンオープン 2014

(2014.9.29~10.5、於・有明コロシアム2階ロビー)



九州大学名誉教授・船橋淳一氏がドイツ留学中に布井良助選手から委譲された、フタバヤテニス堂創始者・長谷秀雄氏製作の逸品ラケット (提供：浦中 潮氏・九大OB)

熊谷一彌氏使用ラケットとアントワープオリンピック銀メダルレプリカ



◀▲全国高校庭球選手権大会発祥 (1908年) の地濱寺公園 (大阪府) に建立された石碑 (2013年) と、当時の様子を拡大したパネル (提供：高石市庭球連盟)

日本男子四大大会・オリンピックベスト8以上記録

大会	種別	選手	記録
1927年 第6回全日本男子テニス大会	男子シングルス優勝	福田雅之助	1927
	男子ダブルス優勝	福田雅之助・佐藤次郎	1927
	男子シングルス準優勝	布井良助	1927
	男子ダブルス準優勝	布井良助・山岸成一	1927
1936年 第1回全日本学生テニス大会	男子シングルス優勝	山岸成一	1936
	男子ダブルス優勝	山岸成一・山岸成一	1936
	男子シングルス準優勝	山岸成一	1936
	男子ダブルス準優勝	山岸成一・山岸成一	1936
1954年 第1回全日本選手権大会	男子シングルス優勝	山岸成一	1954
	男子ダブルス優勝	山岸成一・山岸成一	1954
	男子シングルス準優勝	山岸成一	1954
	男子ダブルス準優勝	山岸成一・山岸成一	1954
1967年 第1回全日本オープン大会	男子シングルス優勝	山岸成一	1967
	男子ダブルス優勝	山岸成一・山岸成一	1967
	男子シングルス準優勝	山岸成一	1967
	男子ダブルス準優勝	山岸成一・山岸成一	1967

トピックス US Open 2014
熊谷一彌選手 日本人初の94年振り快挙達成!!

車いすテニス男女単複初覇者!!

ジュニア選手の活躍

中国国際選手権 US Open Jr. IC ジュニアオープンワールドワイド ファイナル 2014



▲日本人初の四大大会決勝進出の快挙と94年ぶりに熊谷一彌氏の記録を塗り替えた錦織圭選手 (日清食品) を祝福に駆けつけた熊谷一彌氏のご子息一夫氏 (87歳) から花束を贈呈された

◀ 2014年トピックスと日本男子四大大会・オリンピック・パラリンピック記録パネル



▲第6回全日本男子テニス大会 (1927年) に参加した福田雅之助選手、佐藤次郎選手等が投宿した旅館「一か」の主人・唄氏に感謝の印として贈ったシンボル球。後に前田福治氏の手渡し大切に保管され、モニュメント建設を機に濱寺テニスクラブと高石市庭球連盟に委譲された (提供：高石市庭球連盟) 布井良助氏のサイン入りボール (提供：大石禎子様・池田市在住)



▲竹製ラケット (左) と500年前のグロブ型ラケット (横浜山手・テニス発祥記念館所蔵)



▲山岸成一氏 (全日本選手権大会複3回、全日本学生単1回優勝・慶応OB) 使用ラケット (左) (提供：内田農二氏・神奈川県在住) 朝吹磯子さん使用のピアノ線を張ったスチール製ラケット (右)



▲男女単複優勝の快挙を成し遂げた国枝慎吾選手と上地結衣選手の優勝カップ (車いすテニスの部)

国枝 慎吾 (くにえだ しんご、1984年2月21日生、千葉県柏市在住) ユニクロ所属。全仏オープンが設立された2007年以降で、4大会 (グランドスラム) の優勝は、男子世界歴代最多記録の計36回 (シングルス18回、ダブルス18回)。パラリンピックでもシングルスで2個・ダブルスで1個のメダルを獲得している。
上地 結衣 (かみじ ゆい、1994年4月24日生、兵庫県明石市出身) エイベックス・グループ・ホールディングス所属。上地選手の活躍の詳細は次ページの特集記事で。

上地結衣選手への

一問一答



上地 結衣 (かみじ ゆい) / 1994年4月24日生 21歳 兵庫県明石市出身 / 2012年ロンドンパラリンピック日本代表 / 2014年全豪オープンダブルス優勝 / 全仏オープンシングルス・ダブルス優勝 / ウィンブルドンダブルス優勝 / 全米オープンシングルス・ダブルス優勝 / 2015年全豪オープンダブルスでグランドスラム連覇達成。シングルス準優勝

写真提供：横山芳治

11歳の時に車いすバスケットボールから転向されたと聞いています がその理由または、きっかけは何だったのですか？

車いすテニスを始めようと思ったきっかけは、姉が中学校の部活動で軟式テニス部に入学したことです。

約1年はバスケとテニスを両立していましたが、個人競技の良い意味でも悪い意味でも「すべてが自分次第」というところに魅力を感じてテニスにのめりこんでいきました。

車いすバスケを始めるまでは障害者スポーツを見たことがなかったのでもちろん車いすテニスの存在も知らなかったです。

今までに練習コートや仲間、指導者には恵まれていたでしょうか？

私がテニスを始めるもっと前の時代は、コートに傷がつくからといった理由で利用を断られたり、車いすの幅が合わずテニスコートに入ることができなかったり、なかなかテニスができる環境というのは厳しかったと聞いています。

ですが、私が始めたころには先輩方のおかげですでにたくさんのコートが使えるようになっていました。

専属のコーチについて指導を受け始めたのは約4年前からです。

それまでは、同じ車いすの選手同士で打ち合ったり教えてもらったりしていました。周りの選手がほとんど男子選手だったのでその頃の早い展開のテニスやしっかり攻めていくという練習が今の私のプレースタイルにも影響を与えていると思います。そして今の専属コーチに指導を受けるようになり、それまでの自由な、感覚的なテニスに加え考える、頭を使ったテニスを教わっています。

ロンドンパラリンピックのあとテニスを辞めるつもりだったと聞いていますが？

もともと、色々なことに興味があり、挑戦したい性格だったので高校卒業後の進路は、テニスを通じて知ることのできた外国との違いや国際関係・外国語について勉強をしたり、仕事では裁判所事務官になりたいという思いがありました。

しかし実際にパラリンピックに出場してみて、会場の雰囲気や観客の期待感、選手の緊張感などそれまでの大会では感じたことのない感覚ばかりでした。そんな中でプレーができたという達成感とベスト8という悔しい気持ちの両方を味わうことができ「もう一度この舞台に立ちたい」「もっと上を目指したい」と思うようになりました。

数々の輝かしい成績を収めていますが、その原動力となったものは？

車いすテニスを始めたころから変わらない、「楽しむ」ということを忘れずにプレーができていることだと思います。

今までに一番思い出に残る試合は？

色々な試合が思い出に残っていて選ぶのは難しいですが、2012年のアメリカでの大会で、とても尊敬している憧れの選手に初めて勝つことができ優勝したわけではなかったのですが、試合後握手をしながら泣きながら涙を流してしまいました。相手の選手もとても喜んでくれておめでとうと言ってくれました。思い出に残っている試合の一つです。

国枝選手に対してはどう思われますか？

いろいろなことをアドバイスしてくれる、すごく頼りになる先輩であり、お兄さんのような存在です。まだ到底追いつけるような距離ではないですが目標の選手でもあります。

車いすテニスをやっていて良かったと思われる点は？

車いすテニスを通じて様々な国の人と出会うことができ、たくさんの方に会うことで自分の価値観や世界がとても広がりました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けての抱負を聞かせて下さい。

今までお世話になった方々にぜひ、自分のプレーを見ていただきたいです。



全米オープンでは男子の国枝慎吾選手とアベック優勝を果たした 写真提供：佐藤ひろし

平成26年度「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」会計報告書

平成26年4月1日～平成27年3月31日

平成25年度末基金積立金残高	15,847,958
平成26年度寄附金額	4,234,500
平成26年度積立予定額	4,234,500

(単位 円)

平成26年度活動費 JTA予算 400万円

主な活動 楽天ジャパンオープン歴史展示事業
史資料の収集・整備
史資料データベース化作業
保管・展示用備品調達
ニューズレター発行
webテニスミュージアム更新
委員会・プロジェクト会議開催

(注) 26年度より寄附金の全額を基金に積立て、該当年度の事業計画に基づき、委員会予算よりも多額の支出を要する場合には、常務理事会の承認を得て基金から取り崩す事になりました。

■テニスミュージアム委員会■

委員長：小田晶子 副委員長：矢澤 猛
常任委員：後藤光将、武内 勝、小林公子、福田達郎、小林やよい、西野 篤、越智和夫、小川あさ子
プロジェクト委員：宮城 淳、我孫子和夫、市山 哲、猪熊研二、川地 孝、栗岡 威、吉井 栄、佐藤孝裕

〈揭示板〉

- デ杯「魅る田園コロシアムの熱戦」DVD(販売中)、フェド杯「日本女子選手・栄光への道り～フェデレーションカップの時代～」DVD(6月中旬完成予定) テニス絵葉書(4枚/500円)は、JTAwebサイト出版物領布で販売しています。

URL:<http://www.jta-tennis.or.jp/>

- 古いラケット、文献等のテニス史資料の情報、又、住所、姓名の変更も、JTAテニスミュージアム委員会Email:museum@jta-tennis.or.jpまでお知らせ下さい。
- テニスミュージアムの常設展示は有明テニスの森公園の事務所ホールで行なっています。お近くにお越しの際には、お立ち寄り下さい。
- ニューヨークカップ復元につきましてもご支援の程、よろしくお願いたします。



特定寄附金「テニスミュージアム」へのご寄附のお願い

振込先口座名：公益財団法人日本テニス協会 寄附金
金融機関：ゆうちょ銀行 口座番号：00130-0-504638
振込先口座名：公益財団法人日本テニス協会 テニスミュージアム寄附金
金融機関：三菱東京UFJ銀行 支店名：渋谷中央支店 口座番号：(普通) 0272922

クレジットカードによる寄附は、JTAホームページ募金サイトから直接お申込み頂けます。